

Oracle PL/SQL

[Oracle Database10g PL/SQL]

http://otndnld.oracle.co.jp/document/products/oracle10_g/102/doc_cd/appdev.102/B19257-01/overview.html#1310

特長

- ・ SQL のデータ操作機能と手続き型言語の処理機能の両方が利用できる。
- ・ プログラム・フローを制御できる。
- ・ 変数の宣言、プロシージャとファンクションの定義、ランタイム・エラーのトラップが可能。
- ・ 複数のアプリケーション間でその定義済みコードを再利用できる。
- ・ 単純な SQL で問題が解決できる場合、PL/SQL プログラム内で SQL コマンドを直接発行できる。
- ・ データ型は、SQL の列型と対応している。

ブロック構造

- ・ プログラムを構成する基本単位（プロシージャ、ファンクションおよび無名ブロック）
- ・ 内部で相互にネストできる論理ブロック。
- ・ 宣言はブロックの中で局所的に有効。

変数の宣言

- ・ 任意の SQL データ型 (CHAR、DATE、NUMBER など) や、BOOLEAN、PLS_INTEGER などの PL/SQL 固有のデータ型を持つことができる。
- ・ 宣言部の各行の最後には、セミコロン (;) を付ける。
- ・ コンポジット・データ型 TABLE、VARRAY、RECORD を使用して、ネストした表、可変サイズの配列 (VARRAY) およびレコードも宣言できる。

```
DECLARE
  part_no    NUMBER(6);
  part_name  VARCHAR2(20);
  in_stock   BOOLEAN;
  part_price NUMBER(6,2);
  part_desc  VARCHAR2(50);
```

変数への値の代入

変数に値を代入する方法は3つある。

コロンに等号を付けた代入演算子 (:=) を使用する。

変数は演算子の左に、ファンクション・コールを含む式は演算子の右に置きます。変数を宣言するときに、変数に値を代入できます。

```
DECLARE
  wages          NUMBER;
  hours_worked   NUMBER := 40;
  hourly_salary  NUMBER := 22.50;
  bonus          NUMBER := 150;
  country        VARCHAR2(128);
  counter        NUMBER := 0;
```

```

done          BOOLEAN;
valid_id     BOOLEAN;
emp_rec1     employees%ROWTYPE;
emp_rec2     employees%ROWTYPE;
TYPE commissions IS TABLE OF NUMBER INDEX BY PLS_INTEGER;
comm_tab     commissions;
BEGIN
wages := (hours_worked * hourly_salary) + bonus;
country := 'France';
country := UPPER('Canada');
done := (counter > 100);
valid_id := TRUE;
emp_rec1.first_name := 'Antonio';
emp_rec1.last_name := 'Ortiz';
emp_rec1 := emp_rec2;
comm_tab(5) := 20000 * 0.15;
END;
/

```

データベース値を選択またはフェッチして代入する方法。

```

DECLARE
bonus NUMBER(8,2);
emp_id NUMBER(6) := 100;
BEGIN
SELECT salary * 0.10 INTO bonus FROM employees
WHERE employee_id = emp_id;
END;
/

```

値を OUT パラメータまたは IN OUT パラメータとしてサブプログラムに渡し、サブプログラム内で代入する方法。

```

DECLARE
new_sal NUMBER(8,2);
emp_id NUMBER(6) := 126;
PROCEDURE adjust_salary(emp_id NUMBER, sal IN OUT NUMBER) IS
emp_job VARCHAR2(10);
avg_sal NUMBER(8,2);
BEGIN
SELECT job_id INTO emp_job FROM employees WHERE employee_id = emp_id;
SELECT AVG(salary) INTO avg_sal FROM employees WHERE job_id = emp_job;
DBMS_OUTPUT.PUT_LINE ('The average salary for ' || emp_job
|| ' employees: ' || TO_CHAR(avg_sal));
sal := (sal + avg_sal)/2; -- adjust sal value which is returned
END;
BEGIN
SELECT AVG(salary) INTO new_sal FROM employees;
DBMS_OUTPUT.PUT_LINE ('The average salary for all employees: '
|| TO_CHAR(new_sal));
adjust_salary(emp_id, new_sal); -- assigns a new value to new_sal
DBMS_OUTPUT.PUT_LINE ('The adjusted salary for employee ' || TO_CHAR(emp_id)
|| ' is ' || TO_CHAR(new_sal)); -- sal has new value
END;
/

```

バインド変数

- SQL の INSERT、UPDATE、DELETE または SELECT 文を直接埋め込むと、WHERE 句および VALUES 句内の変数を自動的にバインド変数に変換する。
- 動的 SQL の場合は、変数を通常使用する部分（WHERE 句や VALUES 句など）にバインド変数を指定する。
 - リテラルおよび変数値を連結して単一の文字列にするかわりに、変数をバインド変数の名前（先頭にコロンを追加したもの）に置き換え、USING 句を使用して対応する PL/SQL 変数を指定します。

```
'DELETE FROM employees WHERE employee_id = :id' USING emp_id;
```

定数の宣言

- ・ キーワード `CONSTANT` を付ける
- ・ 定数に直接値を代入する必要がある。

```
credit_limit CONSTANT NUMBER := 5000.00;
```